

AT関数

指定された文字列が出現する位置を数値で返す

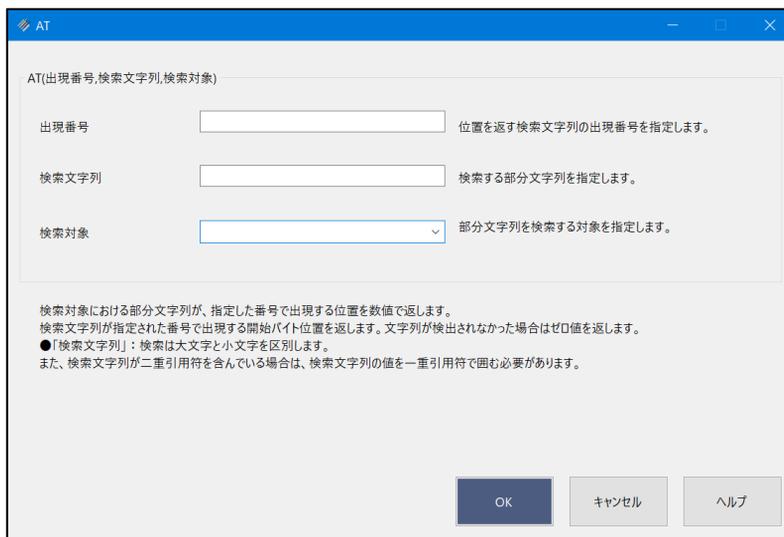
◇機能

検索対象において、検索文字列が指定された番号で出現する位置を数値で返します。検索文字列が検出されなかった場合はゼロ値を返します。

◇構文

AT(出現番号,検索文字列,検索対象)

	引数	入力内容
1	出現番号	検索対象の中で、何回目に出現した検索文字列の位置を取得したいかを数値で指定します。文字数は、全角文字も半角文字も1文字とカウントされます。
2	検索文字列	検索対象の中から検出したい文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● アルファベットの大文字と小文字は、区別されます。 ● 全角文字と半角文字は、区別されます。
3	検索対象	検索対象となる文字型フィールド、または文字のリテラル値を指定します。



◇戻り値のデータ型

数値型

◇処理の例

例	式	戻り値	説明
「03-1111-2222」で、「-」が1番目に出てくる位置	AT(1, "-", "03-1111-2222")	3	「-」は2つありますが、出現番号が「1」のため、1つ目の「-」の位置（3文字目）を返します。
「03-1111-2222」で、「-」が2番目に出てくる位置	AT(2, "-", "03-1111-2222")	8	出現番号が「2」のため、2つ目の「-」の位置を返します。
「03-1111-2222」で、「-」が3番目に出てくる位置	AT(3, "-", "03-1111-2222")	0	「-」は2つしかないため、検索文字列が見つからず、ゼロが返されます。
「Ishikarishi」で、「i」が3番目に出てくる位置	AT(3, "i", "Ishikarishi")	11	大文字の「I」は別の文字とされるため、3番目に小文字の「i」が出現する位置を返します。
「HigashiOsakashi」で、「shi」が2番目に出てくる位置	AT(2, "shi", "HigashiOsakashi")	13	単独の文字だけでなく、文字列も検出できます。
「住所」フィールドで、全角スペースが1番目に出てくる位置	AT(1, " ", [住所]) [住所]フィールドの値が「千代田区 神田1丁目 桜ビル」の場合	11	全角文字（全角スペース）と半角文字（半角スペース）は区別されるため、5文字目の半角スペースではなく、11文字目の全角スペースの位置が返されます。